

主 文

本件抗告を棄却する。

理 由

本件抗告の趣意は、違憲をいうが、実質は、少年を保護観察（短期）に付した本件処分が不当に重いとの主張にすぎないものであつて、少年法三五条一項の抗告理由にあたらない。

よつて、少年審判規則五三条一項、五四条、五〇条により、裁判官全員一致の意見で、主文のとおり決定する。

昭和五六年三月二七日

最高裁判所第三小法廷

裁判長裁判官	環	昌	一
裁判官	横	井	大 三
裁判官	伊	藤	正 己
裁判官	寺	田	治 郎